

第 86 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨

- 日 時 : 2021 年 3 月 22 日 (月) 15 : 30 ~ 16 : 56
- 場 所 : オンライン
- 出席者 :
 - [学外委員]
石田委員、今井委員、奥委員、嶋津委員、名取委員、長谷川委員、林(康)委員、板東委員、
 - [学内委員]
田中学長、増山理事・副学長、横道理事・副学長、小島理事、木島副学長、黒澤副学長、道下副学長、岡本大学運営局長
 - [オブザーバー]
田代監事、林(礼)監事、
- 欠席者 :
 - [学外委員] 林(文)委員、藪中委員
 - [学内委員] 高梨副学長

※協議事項の一部は、学長選考会議との合同開催。

I. 協議事項

1. 2020 年度を振り返って (学長ヒアリング)

2. 2020 年度春季修了予定者及びこれまでの修了生の状況について

田中学長から、2020 年度の実績報告及び 2020 年度春季修了予定者及びこれまでの修了生の状況について説明があった。その後委員との間で質疑応答・意見交換が行われた。

◆学外委員からの主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

- ：修士課程学生数が一時減少傾向にあったが、回復している。その要因はなにか。
- △：各プログラムにおいて積極的に学生募集活動を実施したこと、奨学金を獲得したこと、日本人学生については新しい夜間・土曜プログラムを作ったこと等を要因と考える。
- ：女性副学長 2 名を任命したことを評価する。
- ：修士課程にチュートリアルを導入したことはいい取り組みであるであるが、教員の負担が増大しているのではないかと危惧する。
- △：以前から実施していたものを単位化したものという側面もあり、教員の負担はそこまで増大していない。このコロナ禍においてチュートリアルの機会に学生の動向が把握できることもチュートリアルのメリットである。
- ：同じく夜間と土曜日のコースは、学生数増に有効だと思う一方、夜間と土曜日ということで教員の負担が増大することを危惧している。
- △：現時点ではそれほど規模が大きくないため、教員の負担はそれほど増大していないが、長期的に考えると、夜間と土曜日の特別な手当等は検討する必要がある。
- ：コロナ後の展開として、オンライン講義を発展的に活用していくことは考えているか。
- △：オンライン講義が効果的な面もあったため、オンラインと対面とをうまく組み合わせたい。少なくとも留学生については、日本に来て相互交流することが本学の特徴であり、すべてをオンラインで実施することにはならないと考える。
- ：コロナ禍での海外同窓会での取組について、課題などはあったか。

- △：国ごとに同窓会を開催していたが、今年度はオンライン開催を試みた結果、世界中から参加があったため、今後も継続したいと考えている。
- ：感染症が蔓延する中、留学生の不安に向き合うような留学生用のカウンセラーは配置しているのか、あるいは他でカバーできているのか。
- △：学業に関するカウンセリングであれば、チュートリアルの実施で大部分カバーできると考えている。加えて、修士論文を書く学生にはアドバイザーが付いており、教員がカバーする体制はある。メンタルに関するカウンセリングは、産業医のいる保健管理センターや、学生の様々な相談を受け付けるスチューデントオフィスという窓口を設置している。必要なときに専門家へ繋ぐ体制は整っているため、今後は、その情報の周知を徹底していきたい。

II. 審議事項

1. 2021年度大学運営方針重点事項(案)について

学長から、2021年度大学運営方針重点事項(案)について説明があり、これを了承した。

2. 年度計画(案)について

大学運営局長から、年度計画(案)について説明があり、これを了承した。

3. 2021年度運営費交付金内示の概要及び学内予算(案)について

大学運営局長から、2021年度運営費交付金内示の概要及び学内予算(案)について説明があり、これを了承した。

4. 役員退職手当規程の一部改正について

大学運営局長から、役員退職手当規程の一部改正について説明があり、これを了承した。

5. 授業料の改定について

学長から、授業料の改定について説明があり、これを了承した。

6. その他

特になし。

III. 協議事項

3. 2021年度政策研究大学院大学運営体制(案)について

学長から、2021年度政策研究大学院大学運営体制(案)について説明があり、協議が行われた。

4. その他

特になし。

IV. 報告事項

1. その他

特になし。

以上